

岩屋地区に新たな避難施設が誕生！

旧岩屋小学校グラウンドに建設していた避難施設が完成し、7月23日にオープニングセレモニーが行われました。

本施設は、東通円卓会議の中で岩屋地区の住民の方から避難施設新設の要望があり、令和3年12月23日に着工し約6か月の工事期間を経て令和4年7月1日に完成しました。

これまで避難所に指定されていた旧岩屋小学校は、施設の老朽化が著しく体育館・教室の雨漏り等で天井が落ちて使えない状態となっていたこともあり、早急な対応が求められると判断しました。

オープニングセレモニーでは、岩屋青年会による『門打ち（新型コロナウイルス感染防止の観点から、“屋根”から変更）』が執り行われ、施設及び関係者の無病息災が祈禱されました。

主催者として、畑中稔朗村長より「村はこれまで、東日本大震災の教訓を踏まえ、住民の生命を災害から保護するため、防災計画に従い海拔高表示板設置や避難所防災備品の整備等を進

めており、当地区の避難階段も平成26年から供用開始しております。これまで、避難場所は旧岩屋小学校を指定しておりましたが、老朽化が著しく、避難所としての機能を果たせないと、昨年の円卓会議においても住民の皆様からご意見をいただいております。早急な整備が必要と考え、令和3年度中に実施設計・工事に着手しました。この度、こうして無事完成しましたこと、非常に嬉しく思います。

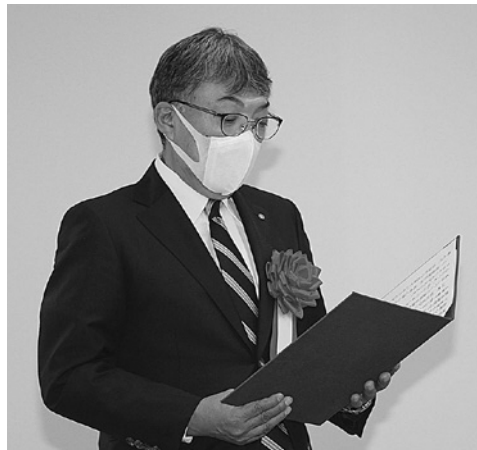
東通村防災ハザードマップ住民説明会でもありましたとおり、『自分の命は自分で守る』ということが大切であり、平時から避難経路を確認するなど、避難対策を今まで以上に心がけていただきたいと思います」と挨拶しました。



岩屋青年会による『門打ち』



一般開放の様子



挨拶を述べる畑中村長



関係者によるテープカット

施設概要

名称：岩屋地区避難施設
 所在地：東通村大字岩屋字小沢平1番地15
 延床面積：109.12㎡（約33坪）
 建築構造：木造平屋建
 総事業費：5,497万円
 工期
 着工：令和3年12月23日
 完成：令和4年7月1日

